

論

説

西村先生講話

第二回

當夏なりしが此處に來りて一場の説話をあせり今日は其續と云ふあらねども愚案にては道德主義を述ぶるにあり凡う道德ハ一般人民以上に關係する道德と又其各の身分による道德との二種あり古昔よりの經書や哲學者ハ説きし者ハ一般の人民に通じたる即人と云ふ者のために説きしものなれど又人々の身分例は役人議員技術士を始め士農工商各側の道德あるに相違ない從て之より諸君が卒業後世に立つべき醫術の上に於ても醫師の道德あると思ふを以て予はうれに就て話さんと欲するなり然れども實は醫師と云ふ者に就ての道德ハ甚だ不案内にて諸君が將來充分なる心得となるべき如き材料あり唯だ一二思ひ付たるところを述べんと欲するも或は頗る欠點多かるべければ其心にて聽かれよ

醫師の業は人命を預ると云ふ業にて甚だ重し故に支那の或人の詞ハ良相と成らざれば良醫となれと云へり醫師は宰相に匹敵する程社會に重みある者なり今日は諸般の學術進歩せるも就中醫學が最も進めりと云ふなるほど聞く處によれば日本の醫師にて西洋人に負けぬ發明や治療をあすものありと實に結構と云ふべしうれぞれの學者がうれぞれの學術を進歩せるとは第一の貴きことなり然れどもうれに向ては日よ月に進歩し私が希望せざるも諸君熟知し社會の狀勢もうれに進むととて別に私如き素人

の云ふ必要なしさらば醫師の道德は言ふ必要なきやと云ふに然らず醫師の道德に就ては故き者なれどフウフェランド氏警戒ある者あり氏は前世紀の大醫あり此警戒翻譯されてあれども未だ讀みしとなきを以て此處に來る前に讀まんとせしが讀まざりし何にせよ醫師が醫師の道德をすこむるとあれば結構ある書なるべし諸君或は熟知なる可きか私は嘗て其中に「他の爲に生れて己れの爲めに生れず之れ醫業の本體なり」とあるを傳聞にて記憶せり若し實際の如き詞あらば金科玉條とも云ふ可き金言ありと思ふこは醫師のみならず何人たりとも守るべき戒なりと思ふ之を服膺すれば道德を守るによく假令は役人が「己れの私を以て役人となりしにあらざ」とて國家の爲に盡さば實に立派なる役人なり、其他教員農工商等の實業者が自己の私を棄てて他人のため或は自己の生れたる國家の爲めに力を盡さば其人として立派にしかき人の多き國は又立派にして益々隆盛になることと思ふなり、若し役人が夫に反し「自己の爲に生れて他人の爲ならず一個のために生れて國家の爲ならず」とし其他の人々もしかく考へなば其國は廢亡滅亂すると考へらる以上は一般に向ひて述べしことながら彼のフウフェランド氏は醫師を主とせるとなれば其目的たる諸君即後來醫師となるべき人は此心掛が必要と思ふなり然るも其警戒は未だ一讀もせず僅かに人より聞きし古き記憶あれば或は誤謬なきを保し難ければ次には記憶も確かにして且つ身近なる者に就きて語らんとす

英國のアダム・スミスは有名なる經濟學者にして前世紀の終より今世紀の始に生活し初めて自由貿易を唱道し又國富は貨幣の存する爲めにあらず價格ある者皆盡く國の富なりと唱へ高名なる人なるが

又道德學に秀で歐洲道德學の歴史には必ず列擧せらるゝ人なり此人の道德主義は甚だ面白く考へらる
其主義は英語にてシブナルカル、フイーリング相互の心の感覺を交換すと云へる意なり之れは道德の一
番の主義にて假令は人間は大体社會に交るとき相手あり政府には人民教師には生徒と云ふ相手あり之
が互に相對するとき感覺異なるものあり、夫を自分許の感覺を主張せず相互に交換すれば甚だ佳良な
り政府は租税を多く取らんとし人民は少く納めんとするを感覺の交換にて政府は人民の心を以て心と
し租税を軽くし人民は政府の必要な丈租税を納むることとす又金を貸す者は高き利息を欲し借る者
は廉なるを欲するも之を貸す者は利息を廉にし借る者は相當の利息もて期限を誤まらざるが如くする
なり、されど身分により相互と云ひ難く四分六分或は七分三分の交換をあすことあるべし兎角相手の
感覺を自己の感覺とせば佳きなり之は道德學中世間の道德主義とは大分異なるも實際界近にして誤な
しと考ふ

之より諸君は一定の年限を経れば卒業して立派なる人となるべくそは規則を守り教師の指導に順ひ自
己の勉強によりて出來べきことにて私の關係なき處なれば敢て言はざるが儘て世の中には三大罪あり
何れの國に於ても其文野を論ぜず聞せらるゝことなき者とす第一は國家を治むる器量なくして政權を
取るにあり、之れにありては國民を甚だ困難せしめ死す可らざる人も死するに至る而已ならず又財産
を破り隨て國亂るときは一層甚しくあるものなり之れが一番重罪あり

第二は軍事を知らずして軍を卒うるにあり假令ば支那の大將の如く其器にあらざりて戰ふを以て全く

艦隊を沈め多數の人を殺すが如き不仁の事あり

第三は醫術拙くして人命を預ることなり

以上は所謂三大罪なりこの他の罪は皆刑律に問はれ重きは絞罪に處せらるゝも之れにありては全く不問に歸せり若し天地の道理にして神あらば決して免さぬことと思ふなり諸君の地位にて醫師となるには然らざる可くも拙なくして生命を預かるが如きとをなす可らず尙一たびアダム、スミスの感覺の交換に就て述べん

諸君が卒業して一番多く交際する人相手になる人は病家あり、偕て今日我帝國の一般人民の程度を見るに日本人民に對しては失敬ながら大半は智識缺乏大半は貧乏なり此二者多きに之を相手に事業をなさんとするか將來諸君の仕事あれば甚だ困難なり而して其又病人病家が醫師に對する感覺に望みあり一々聞かざれども大抵二十乃至三十人の希望を聞きなば一般の人の事を察知す可し夫は何ぞや一般の人の希望は親切にあり可及的親切に願ひたしと一つは藥代の少からんことあり如斯きことを言ふ者多數を占め諸君は又かくる者を相手となさざる可からず畢竟醫師の巧拙よりも親切にして藥代の廉きを望むにあり之れも智識なきと貧乏あるよる先づ如斯きことを素人は多く考ふれども諸君の耳には入らず或は遠慮して言ふものなため知らざるやも料り難し却て私如き無關係の者の知るところとある之に就きて或は諸君の考にては「うの如き事を言ふは愚昧なり」「うの如き事は關係せざるも可なり、愚人や貧乏人の言ふ事は構はぬ」と云ふ人あらんも知れねば先づあるとて考ふるに今日の世には愚人

と貧乏人多し後に至らば長く改まるへきも今日の所にてはしかるを以て諸君は尙相手とせざる可らず
近年は我國の一般の富も増し來り心配なきが如きも近來の統計を見るに歐洲人と比して尙十倍少き
程度ありと思ふ畢竟十倍増さねば同様の位置にならぬと思ふ或は之を雜誌に見るに拾二圓と二拾圓と
の人の一ヶ月に於ける賄計算を記載せるものあり其内拾二圓の人は夫婦にて二拾圓は夫婦小兒母親
とあり充分記憶せざれども何にせよ夫れ丈の月給が今日の世に「パイ」にて病に罹れる時の餘裕
なく醫藥を飲む餘裕なししかるに貳拾圓十二圓以下の人が何程あるやは料り知る可らずかゝる貧富の
程度あれば之より醫師にならば病家の費用を減少したしと云ふは醫師の德義ある可し、つまり前述
のフウフェランドやアダム、スミスの主義に協ふことと思ふ或は歐洲、亞米利加の例を引き醫師は
カ、カ、カ、の者なるよりコレコレの禮を取り又コレコレの謝儀を要すと云ふ人あるも如斯き貧富の現狀
故何卒我國に於ても充分醫師が謝儀を取り得るが如く進歩したきも如何せん三十年や四十年にては出
來難しうれに就き一話あり、其話せし人は學問あり地位ある人ながら其名は暫く秘して置かん其人の
曰く其人の心安き貧困人が病氣にて或醫師の治療を受け三圓程の藥代あり其中二圓を謝禮せしが一圓
は滞りたりしに不幸にも再び病に罹りしを以て同じき醫師に依頼せしも辭退して來診せず止むを得ず
他の醫に罹り遂は死亡したり人間の命が一圓より廉なりと思ふが如き又死しても行かずと云ふが如
き不親切にては不可なり私の如きもの如き醫師に決して診を乞はずと云へり私は思ふにうれは誤れ
りと然るも其坐にありし數人が拍手して妙と賞したり、その論は正しと思はねども其論の立て方面白

き故か賛成せり何にもせよ素人の考は如斯、之れは醫師に解し難し

夫より尙一つあり、東京にて昨年のとよりしが、天然痘流行せしが種痘せざる可らずとて遅まき乍ら諸所にて種痘たり其中にて淺草區は何故か甚だ獮狷にして種痘も手遅れとなりしを以て醫會なる者に依頼し種痘を乞ひしに謝禮一日若干宛にては不足ありとて拒絶せり或人の如きは淺草區には衛生會ありとて遂に淺草區に趣かず然るに病勢益々盛となりしを以て其邊の某氏は餘りの氣の毒さに行いて種へんと思へども醫會の規約あるを以て單獨に行ひ難く又無代價にて種ぬ難くとて遂に醫會を脱して無代價にて種たりと云ふ之れは如何か知り難きも當時二三の新聞に見えれば事實ならん而して或新聞にて其事を攻撃して醫者は仁術であるを何たる失態ぞと論せるに醫者の新聞にては醫は仁術ながら其結果に於て仁術に協へば良しと反駁せり私にも善惡の判斷は出來ざれども何にせよ一般の人の感覺を惡しくしたり、夫を不仁ありと攻むるも惡しかるべく兩方とも、あまり美德ならざるべし、夫は大勢ならざらんも何人かが主張すると相互の感覺を惡くすべし乍併其醫師の名譽を毀損したるとも聞かざりしが右の如きともありたり

又類似の事にて面白からざらんも此頃政府にて大藏省の金が不足するより賣藥税を三倍四倍に増加せんと唱へり之れは關係なからんが日本醫事週報あるものあり醫者が書くことあるべし其週報の名を引きて某新聞に左の一節を記載せるを見たり

政府果して財政困難にして財源を求めば先づ彼等より纏るは適當なり

僅かなる事乍ら良からずこれにて一層賣藥者の不平を高めた筈ると云ふが如き相手の感覺には甚だ惡し、何卒醫師は苟の如きことを言はざるやう願ひたし前述せる如く愚人と貧乏人の多き世の中なれば私の考は世間の説と異り因循説なるべきも私は素人なるを以て互に感覺を交換して素人の考を諸君に聽かれんことを欲す

賣藥は利益多きもの故増税するも可と云ふは餘り淺薄ある考なり其一を知りて其二を知らぬものなりよし賣藥を業とする者は問はずとするも賣藥を買ふて飲むは貧民或は無識の人なり而して貧民とても賣藥より醫師の藥の効あるを知れど如何せん貧困よして醫師の藥を飲むこと能はず是非なく賣藥にて濟すなり、貧民のみならず山間僻地にて繁華の土地と遠隔せる處には醫師も行かず賣藥よるの外なし又汽船、汽車の中にも醫師は居らず今日はかかる有様あり、さて賣藥を効あると思ふ人あるべきも効能なしと私は信ぜり、こは無益なる事なれど私が十四、五年前の事なりし旅行して江州と敦賀の界にて一泊せしことありしに夜中從者の腹痛を起すに困み宿の主人を問へば醫師は三里或は四里を隔つと云ふぞらは藥はなきやと問ふに無しと答ふしからは病のときは如何にすると尋ねしに神佛を信心すると云ふに如何とも詮なかりしが從者の甚だ藥を欲するにぞ隣家より蠟生へたる藥を買ひて用ひしめしに治したりうれよりは自分も寶丹位を持ちて汽車中等にて難澁せる人に吞せしたることありしが向ふにては、苟は爲めに治せりと云ふ、果して効ありしや否やは知りねど私は効なきものとは知り何にせよ、今日、日本の程度にては賣藥も棄て難し、無益と云へば無益なり世の中には尙無益なる事多

い、南無阿彌陀佛を念ずるとて多くの金を集め寺院等を建設するが如きうれにて安心を得らるべきが如きも無益に頂點なり賣藥も夫の如く今日の民度に止むを得ず用ふるものにて且つ酒や煙草の如き奢りの爲めに用ふる者にあらずして苦痛の爲あり西洋にも賣藥ある由あり、かく言へば賣藥者の爲に辯護士の如きも唯素人の考として述ぶるにあり何卒餘り賣藥を憎まざらんことを願ふ繰返して述ぶる様なれど今日の中等以下の素人の考は私の考ふる如き點にあると考ふ素人の病家の意を取次ぎて述ぶるあり又如斯き賣藥が永久日本に存在することは悲む可きも之れは他の方面より財産智識の進歩によりて廢するやうに成したきものなり、又瀝車は醫者を置くが如くして廢したる其他醫師が悪く言ふ處もあらんが夫は穩當あらず

尙一つ彼の親切は今日の醫師には親切なる人多しされど病家の親切を望むは恐くは醫者が考ふるより多きかも亦知り難し、此事を良く行いて貰いたし別に方則あるものはなけれど猫や犬にても愛すれば其心が通する者をして同人間にて親切の通ぜざることあるべからず

如斯きことにて面白かりざる可きも如斯きことを陰にて云ふと諸君の面前にて云ふものなければ老人として茲に述べたれど決して諸君の不利益あらずと思ふ尙醫學の本道に就ての道徳は今日の方法によれば進歩は期して待つ可し私の云へるは横道ながら此道も亦誤らぬやうに願はんといふ

筆記者

小川 富男
蓬 菜 武